

CLOSE UP!



輸血・細胞治療部

24時間体制で安全な輸血療法を行う!

当院の輸血・細胞治療部は、主に血液製剤の一元管理、輸血前検査、移植関連検査など、安全で適正な輸血療法を推進するため、24時間体制で診療に携わっています。今号では、輸血・細胞治療部の業務の中で特に輸血に関する業務についてご紹介します。

●患者さんに合った(適合した)血液を選ぶ

輸血とは、病気による貧血やケガ・手術などによる出血のために、不足した血液成分を補うための補充療法です。近年、輸血用血液製剤は極めて安全なものになっていますが、他人の血液を体内に入れることは一定のリスクを伴います。異なる血液型や、抗体がある人に輸血を行うと、輸血の効果が得られないばかりか、重大な副作用を起こす危険があります。そのため、輸血を行う前には必ず、患者さんに合った(適合した)血液を選ぶため

の検査を行います。

- (1) ABO・Rh式血液型検査…患者さんの血液型を確定するための検査。
- (2) 不規則抗体検査…ABO式血液型の規則抗体以外の赤血球抗体を調べる検査。
- (3) 交差適合試験…輸血による副作用を防止するため、患者さんの血液と輸血する血液とを混ぜ合わせ、確認する検査。

●最新の機器を用いた血液製剤の一元管理

輸血用血液製剤は、血液成分の種類によって保存温度や有効期間が異なる(赤血球2～6℃、新鮮凍結血漿-20℃以下、血小板20～24℃)

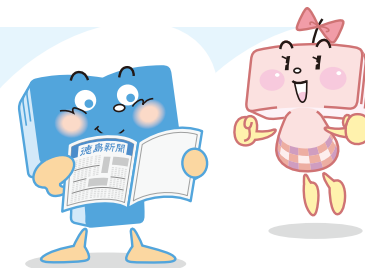
ため、温度集中監視装置付の専用保冷库に、それぞれに適した温度による管理を24時間行っています。

●輸血過誤の防止対策

患者さんから採血した検体や血液製剤は全てバーコードを利用して最新のコンピューターシステムに登録し、一元的に管理をしています。

血液の取り違い防止	・患者血液をバーコード貼付採血管に採取
血液型判定／入力ミス防止	・検査は全てバーコードで一元的に管理 ・精度の高いカラム凝集法で検査
出庫時の血液バックの取り違い防止	・血液バックの色(A型:黄色、B型:白色、O型:青色、AB型:赤色)とカラー出庫伝票の色を揃え、出庫時は2名で読み合わせを行う
血液バックの照合ミス防止	・ナースステーションにて2名でダブルチェック
病棟・手術室での患者・製剤の取り違い防止	・患者さんのリストバンドIDと血液製剤番号をコンピュータ照合し、輸血

〈輸血検査以外の業務〉本院には2名の、日本輸血・細胞治療学会に認定された輸血検査技師がいます。直接輸血に係る検査以外にも、造血幹細胞移植や臓器移植に必要な組織適合性検査(HLA検査)、自己血や造血幹細胞の保管管理など、高度な医療にも積極的に取り組んでいます。



「トクシンに載っとるでよ！」
地域のニュースが人の間を結びます

郷土と共に歩む
徳島新聞社

ご購入のお申し込みは ☎ 0120-46-1940
www.topics.or.jp